

平成23年度私立学校10年経験者秋期研修（西日本）実施概要

10年経験者秋期研修会（西日本）は、10月21日（金）から22日（土）の2日間、兵庫県私学会館（神戸市）で開催され、30名を超える参加があった。

1泊2日の合宿研修は、日本私学教育研究所の中川武夫所長による講演「私学の現状と課題」である。私学と公立の違い・戦後教育の問題点・私学を取り巻く喫緊の課題・教員免許状更新講習の今後・不満を持つ保護者への対応等、内容は多岐にわたり、私学にとって重要なことばかりだった。

次に、文化学園大学杉並高等学校名誉校長である野原明氏の講演「教育の現状と私学教員の役割」では、



学習指導要領とPISA型学力についても問題や、教員免許状制度の今後の展望など、教育界を取り巻く社会の動きについて詳細な説明がなされた。

1泊2日の合宿研修では、夜間も研修が行われる。夜7時から9時までは、少人数のグループに分かれての討議である。各学校での生徒指導上の悩みや、授業の進め方など、若い教員たちは、時を忘れて熱心に



議論していた。

研修2日目。この日は日本大学准教授で弁護士の堀切忠和氏による「事例に学ぶ危機管理」の講演があった。学校現場には、さまざまな事故や危険の可能性があり、それらに適切に対処する必要性を堀切氏は強調していた。

午後からは当研究所の山路進研究員、山崎吉朗研究員による「新しい学力観と評価のあり方および学校評価」の講義が行われた。スクリーンには、パワーポイントで作成された膨大な資料が、次々に映し出され、受講者たちは、時には机上の資料に目を落としながら、真剣にノートをとっていた。



午後4時からの閉会式では、修了証が手渡され、2日間の研修を終了した。

（高山博通）